中部のエネルギーを築いた人々

次々に新しい扉を開く川上貞
～先人たちの底力・知恵泉/川上貞アンコール放送より～

NHK-Eテレ「先人達の底力～知恵泉（ちえいず）」番組制作に当たり、日本電気協会中部支部ホームページで「中部エネルギーを築いた人々」に連載されている日本の電力王・福沢桃介と日本初の国際女優・川上貞の紹介が目にとまり、二人を解説するインタビューを受けた。

本放送、「知恵泉番組/川上貞編」は2024年８月13日㈫22：10～22：54に放映、１年後の2025（令和７）年９月２日㈫22：00～22：44にアンコール放送があった。

これらの番組制作に当たり番組ディレクターがどのような事項について関心を持って制作を進められたのか、インタビューを受けた多くの質問と回答内容などの感想を報告する。

川上　貞奴：日本初の国際女優
1871（明治４）年～1946（昭和21）年
写真：成田山貞照寺提供

Ⅰ　番　組　概　要

１　番組の趣旨

「人材を育てるには？」「組織を発展させるには？」…など人々が社会の中で直面する様々な課題は、先人たちが取り組んできた問題と通底します。彼らは様々な知恵によって壁を突破してきました。当番組では歴史上の人物の活躍をＶＴＲにまとめて紹介、現代の関心事に即しスタジオでトークしながら、先人の「知恵」を振り返ります。

２　今回のテーマ：「川上貞」

日本初のダム式大井発電所を見下ろす高台（＝恵那峡さざなみ公園）に福沢桃介像と並んで女性のレリーフがある、川上貞。日本人初の欧米で活躍した女優で桃介のパートナー。自らも会社を経営した、自立した女性でした。破天荒なその生き様から、人生を豊かにする術を学びます。

３　出演者

司　会：高井正智
《NHKアナウンサー》

ゲスト：加來耕三
《歴史家、作家、テレビ・ラジオ番組の出演で活躍》

伊藤正裕
《大型蓄電池の開発・生産するパワーエックス社を創業》

山之内すず
《タレント、女優、ファッションモデルなどで活躍》

Ⅱ　知恵その1：「常識の壁を破れば道は開ける！」

芸者から日本初の国際女優となる過程を非常識の音二郎と貞の二人が開拓して行ったことが分る。また、当時、賤業と思われた女優の地位を高めるため「川上貞は長期的な観点から帝国養成所、川上児童楽劇団を運営していった」と元国際基督教大学アジア文化研究所・田中美恵子研究員が解説した。

1　川上貞奴の人生

川上貞奴の人生は

⑴　「1871（明治４）年～1894（明治27）年」：
芸妓時代

⑵　「1894（明治27）年～1911（明治44）年」：
川上音二郎と結婚し「川上座」など開設、日本初の女優時代

⑶　「1911（明治44）年～1946（昭和21）年」：
福沢桃介との二葉館での生活時代の３回の転機に分けられる。

2　国際女優として活躍した川上貞奴の海外公演

川上貞奴と音二郎が欧米公演したのは、下記の通り３回ある。

１回目：「1899（明治32）年４月～
1901（明治34）年１月」

アメリカで公演後、イギリス、フランスへ渡り1900年パリ万国博覧会ロイ・フラー劇場で公演。（当時パリに来ていた19才のピカソが描いた貞奴の舞台姿のスケッチ（パステル画）がバルセロナのピカソ美術館に残されている。）

２回目：「1901（明治34）年４月～
1902（明治35）年８月」

西欧のドイツ、フランス、スペイン、ロシアなど14カ国で公演。1901年ベルリンでの川上一座の録音が存在している。

３回目：「1907（明治40）年７月～
1908（明治41）年５月」

パリを中心にイタリア、イギリス、ドイツなどで公演。

ピカソが描いた貞奴のデッサン画
（写真：複写成田山貞照寺蔵）

Ⅲ　知恵その2：「経験こそ宝、自分の強みは他の場所でも生かせる！」

山之内すずのタレント経験や伊藤正裕社長の Social Contract（＝我が国で言うアウンの呼吸の社会）と同じで諦めることなく新しいみちを開拓していった。

1　福澤桃介との二葉館での生活

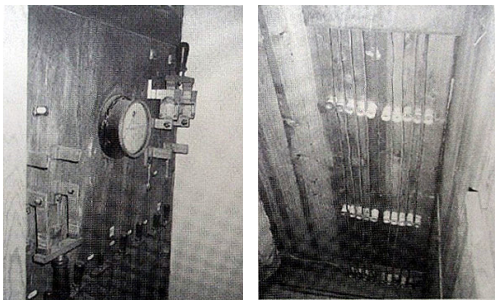
桃介と貞奴のなれそめは、明治17年、馬で成田山詣での帰途、野犬に襲われたとき桃介に助けられ、初恋の人となった。しかし桃介は福沢諭吉の２女・房と結婚、福沢家の養

子となり岩崎から福沢姓になった。また、川上貞奴は川上音二郎と結婚した。

1911（明治44）年、川上音二郎が腹膜炎でなくなり、追善興行などを行った。その頃、福澤桃介が木曽川の電源開発に全精力を傾けた時代に陰で支えたのが川上貞奴であった。

ゲストの伊藤正裕社長が述べたように木曽川の電源開発には川上貞のSocial Contact（社交的接触＝社交、社会的サロン交際）の活躍が必要であった。

このため桃介は、1920（大正９）年、名古屋の拠点として名古屋市東区東二葉町に日本で初めての住宅会社アメリカ屋の設計で二葉荘を建て、「川上貞」の表札を玄関に付けた。和洋折衷の斬新さと豪華さから二葉御殿と呼ばれ、創建当時は自家発電、大理石の配電盤、屋内配線（＝タップ配線）、さらにテレビに映し出された呼び鈴配線などがあった。ここで貞は訪れる来客の接待を取り仕切った。



創建時の大理石製の分電盤と屋内配線
（出典：旧川上貞奴邸復元工事報告書）

また、番組ディレクターは大井ダム建設で、貞は男が尻込みするゴンドラに乗り川辺まで降りた行為に注目し貞奴の性格を放映した。大井ダム建設現場に怠業気分が広がり、動揺しているという報告が入ると桃介は貞奴と共に重役たちを引連れ現場を視察した。ダム建設の谷底を見下ろすと作業員たちの姿が小さく見える。桃介は意を決したように「この空中ケーブルから谷底へ降りられるか？」と現場監督に聞いた。見下ろすと直下距離は約60mあり、ゴンドラに資材をのせ運搬するもので、桃介はそれに乗り込むと重役たちは顔色を変え引き留めた。その時、貞奴が続いて入ると桃介まで驚き止めたが、貞奴は操作員に向かって「動かしなさい」と命じた。その気迫に押されてスイッチを入れると降りはじめ無事ついた。すると万歳ともつかぬ感動のどよめきがこだました。このように桃介と貞奴が従業員の労をねぎらった。

大井発電所工事関係者：最前列左から３人目が
福沢桃介、その右隣が貞奴
（写真：関西電力東海支社提供）

２　金剛山桃光院貞照寺の建立

貞照寺本堂回廊の外壁に八霊験絵図がある。今回のテレビ放映で、「第二面：野犬に襲われる図」と「第八面：大井ダム完成の図」に関するものが紹介されている。

福沢桃介と川上貞は木曽川上流の発電所の水が中流域にある景勝地・鵜沼が気に入り、この地で人生最後を過ごそうと貞奴は寺の建設に着手した。

1931（昭和６）年に上棟式を行い貞奴と桃介が臨席した。大工は名古屋の宮大工・伊藤平左衛門で、寺は金子堅太郎によって「金剛山桃光院貞照寺」と命名され、初代住職に元真義真言宗派智山派管長・滝承天僧正を迎えた。

⑴　八霊験絵図

貞奴は自らの人生で不動明王から守られていると信じ、自らの人生で選んだ八つの場面を岡田如竹に描かせ、それを木版に彫らせ、

参拝者が見られるように短い詞書を添え本堂回廊の外壁にはめ込んだ。

第一面は「水垢離之図」で、貞奴が雛妓になって間もない冬、養母・可兎の難病を救いたいがために極寒の深夜に水垢離をする場面である。

第二面は「野犬に襲われるの図」で、成田詣での帰路、野犬に襲われた貞奴の乗馬が、前足を空にあがいていなな く場面で、不動明王を念ずる貞奴と、たまたま行き合わせ助けた桃介との遠い日の出会いがが秘められている場面である。

第三面は「箱根山中落下狼藉の図」で、奴時代に宵闇の箱根山中で悪漢に囲まれ、危う く難を逃れた場面である。

第四面は「馬術競技で落下したる図」で、貞女21歳、上野池之端で馬術競技に出場し、柳に母衣を引っかけて落馬したものの無傷だった場面である。

第五面は「相模灘に二間余の小舟で暴航する図」で、音二郎が選挙で争って負け、借金に追われた時に小舟で相模灘を漂い、下田に漂着した場面である。

第六面は「アシカの群れ襲来の図」で鳥羽沖でアシカに追われ、貞奴が舳先で両手を合わせ合わせて拝んでいる場面である。

第七面は「興行資金手中に戻る図」で、ヨーロッパ巡業の支度金を神戸で人力車中に置き忘れたものの、不動妙の加護で手中に戻った場面である。

第八面は「大井ダム完成の図」で、1924(大正13)年、桃介の大井ダム工事の現場で、完成を記念する貞奴の頭上に不動尊の後光が差している場面である。

この番組撮影場所として紹介された二葉館・緒方綾子館長は、当時、世間での批判とは別に充実した二人の暮らしで、「桃介と貞は事業のパートナーとして対等の立場であった」と分かり易く解説した。

参考資料　年譜（川上貞奴・福沢桃介）

川上貞奴	和暦	西暦	福沢桃介
	明治１年	1868	埼玉県比企郡吉見町で生まれる
東京・日本橋で生まれる	明治４年	1871	
	明治16年	1873	川越中学３年生から慶応義塾に入学
	明治19年	1876	福沢家と養子縁組
	明治20年	1877	アメリカに留学（２年８ヶ月滞在）
	明治22年	1879	北海道炭鉱鉄道に入社
新派の川上音二郎と結婚	明治27年	1884	結核で療養生活
	明治28年	1885	株取引で千円の元手を10万円
	明治31年	1888	王子製紙取締役就任、利根川水力発起人総代
わが国最初の女優「貞奴」となり、国内外で活躍	明治32年	1889	京橋に丸三商店設立（約１年後閉店）
	明治34年	1891	福沢諭吉歿す 北海道炭鉱鉄道に再入社（約５年余勤務）

帝国女優養成所設立	明治41年	1908	博福電気軌道設立発起人、 豊橋電気㈱取締役就任
	明治43年	1910	名古屋電灯㈱取締役、常務取締役に就任
川上音二郎死去	明治44年	1911	
	明治45年	1912	千葉県選出の代議士に当選 （政友会公認・１期３年）
	大正２年	1913	再度名古屋電灯㈱常務、翌年取締役社長に就任
	大正３年	1914	愛知電気鉄道株式会社取締役社長に就任
女優引退	大正５年	1917	電気製鋼所設立、翌年取締役社長に就任
名古屋市北区に川上絹布㈱を設立	大正７年	1918	東海電極製造㈱設立、相談役に就任 木曽電気製鉄㈱設立、取締役社長に就任
名古屋市東区に二葉荘を建設	大正８年	1919	矢作水力㈱設立、相談役に就任 （社長：長男の福沢駒吉） 東海道電気鉄道㈱取締役社長に就任 大阪送電㈱設立、取締役社長に就任
	大正９年	1920	大同電力㈱社長に就任
	大正10年	1921	関西電気㈱社長に就任、12月辞任 大同製鋼㈱を設立、取締役社長に就任
	大正11年	1922	東邦電力㈱相談役に就任 東邦瓦斯を設立（名古屋瓦斯を合併） 北恵那鉄道㈱取締役社長に就任
川上児童劇団結成	大正13年	1924	
	大正15年	1926	天竜川電力㈱取締役社長に就任 帝国劇場㈱取締役会長就任 東京に別荘「桃水荘」を建設、東京に転居
	昭和３年	1928	実業界から引退
	昭和６年	1931	貞照寺地鎮祭に臨席
岐阜県各務原市鵜沼に貞照寺建立	昭和８年	1933	
東京に転居	昭和12年	1937	
	昭和13年	1938	東京の渋谷本邸で死去
熱海で死去	昭和21年	1946	

（寺沢　安正）